



(岡山南部)

岡山・岡山城二の丸跡

おかやまじょうに まる

1 所在地 岡山市内山下二丁目

2 調査期間 一九九四年(平6)八月～九月

3 発掘機関 中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会

4 調査担当者 松本和男・乗岡 実・延堂 守・山本晋也・

氏平昭則

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 一四世紀前半～一九世紀後半

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、中国電力内山下変電所ならびに新社屋建設に伴うものである。調査対象地は、岡山市内の中心部に位置し、岡山城下絵図によると、岡山城二の丸に位置する。調査区は、岡山城下町絵図の一つである『慶安絵図』によれば、岡

山藩の第三家老であった池田伊賀守の屋敷地の北西隅に相当する。発掘調査はA・Bの二調査区に分けて実施し、その面積は計一二八㎡である。

本調査で検出された主な遺構は、中世では墳墓・土坑、安土桃山～江戸時代では井戸・建物・便所・溝・土坑、幕末～明治では井戸などであり、これらの遺構に伴う遺物が出土した。今回の調査で最も注目されるのは、承応三年(一六五四)の洪水砂層に比定される土層内から、高台寺様式の時絵録を含む多量の遺物が出土したことである。

今回報告する六本の木簡は、(1)が洪水砂層、(2)～(4)が土坑二、(5)が土坑四から出土している。時期は(1)が一七世紀中葉、(2)～(5)が検出された遺構面や共伴遺物からみて、天正一九年(一五九一)～慶長二年(一五九七)の間に廃棄されたものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

洪水砂層

(1) ・「」[下入カ]
中白三ヶ
・「」

162×35×5.5 032

土坑二

